

## 県立尼崎北高等学校第75回卒業式 校長式辞

巡る季節が確かな歩みを進め、春の訪れを告げる今日の佳き日、ご来賓、並びに、保護者の皆様方のご臨席を賜り、兵庫県立尼崎北高等学校第75回卒業証書授与式を挙行できますことは、誠に大きな喜びでございます。

ご臨席賜りました皆様方に厚くお礼申し上げます。

まずは、ただいま卒業証書を授与しました、75期生269名の皆さん、卒業おめでとうでございます。

皆さんは、本校における3年間の課程を修了し、本日、卒業証書を手にすることになりました。教職員を代表して心からお祝いを申し上げます。

また、今日（こんにち）までお子さまを支え、励ましてこられました保護者の皆様、お子さまのご卒業、誠におめでとうでございます。

こうして卒業式を迎えることができたのは、皆様のご理解とご協力の賜物と、深く感謝申し上げます。

さて、卒業生の皆さん、尼北での3年間はいかがだったでしょうか。

**1年生**の春、期待と不安を胸に校門をくぐった日。新しい仲間と出会い、授業や部活動に挑戦しながら、高校生活に慣れていく日々を過ごしました。自ら考え行動する「自主」の心を育み始めた時期だったかもしれません。

**2年生**では、学業や部活動、行事を通じて、自分の得意なことや課題を見つけ、成長を実感したことでしょう。北高祭では、仲間と協力し、一つの目標に向かうことの大切さを学びました。それはまさに「協調」の精神が形となった瞬間でした。

そして**3年生**。進路という人生の大きな選択と向き合い、自分自身と深く対話する時間を過ごしました。迷い、悩み、壁にぶつかることもあったでしょう。しかし、そのたびに乗り越えようと努力を続け、周囲に支えられながら今日という日を迎えました。まさに「自律」の力を身につけた証です。

**ここで皆さんに贈りたい言葉があります。**

それは、雪月花（せつげつか）という言葉です。雪、月、花と書きます。

古来、人は自然の美しさを「雪月花」という言葉で表してきましたが、同時に「移ろい」の象徴でもあります。

## 雪はやがて溶け、月は満ち欠けし、花は咲いて散る。

その姿はどれほど輝く瞬間であっても、同じ姿のまま、続くものはありません。しかし、限られた時の中で懸命に輝くからこそ、人の心を打ちます。

皆さんの高校生活も、また、かけがえのない「雪月花」の時間でした。戻ることはありませんが、ここでの出会いと努力は、これからの人生を照らす光として残り続けることでしょう。

さて、卒業にあたり、私から2つのことについてお話をさせていただきます。「これからのこと」と「これまでのこと」についてです。

### まずは、「これからのこと」についてです。

皆さんが生きる社会は、変化が激しく、今日の正解が、明日も正しいとは限らない。身につけた知識や評価も思う以上の速さで姿を変えていきます。

こういう時代だからこそ、私が折に触れて思い出す一冊があります。歌人であり生命科学者でもある永田和宏さんの『**知の体力**』です。

永田さんは、変化が激しく、確かな正解が誰にも保証されない社会において、人を本当に支えるものは、過去に得た知識ではないと言います。

それは、わからなさの中に立ち、問いを抱（かか）え、学び直し、考え続けることのできる力。それを「知の体力」と呼びました。

思い通りにいかないとき、迷うとき、答えが見えないとき。そこで歩みを止めるのではなく、もう一度、自分に問いかける。

「自分はどうありたいのか?」、「何を信じ、何を学ぶのか?」

これからの時代に問われるのは、「何を知っているか」以上に、「未知の中で、どう考え続けよう」とするかです。

遠回りに思える経験も、失敗に見える出来事もあるでしょう。しかし、挑戦の先で生まれた迷いや悔しさと向き合った時間は、必ず皆さんの内（うち）に力を蓄えていきます。

比べるのは他人ではなく、昨日の自分。

恐れるのは失敗ではなく、立ち上がらなくなること。

そして、人を大切にし、信頼を積み重ねて歩むこと。

問い続ける人に、成長があります。  
学び続ける人に、未来は開かれます。

どうか皆さん、自ら問いを抱（いだ）き、その問いとともに歩み続ける人であってください。その姿が、皆さん自身の人生を豊かにし、やがて社会を支える力になることを心から願っています。

### **次に、「これまでのこと」についてです。**

皆さんの今日の卒業は、皆さん自身の努力の結果であることはもちろんですが、その背後に成長を支えてくれた人がいたことを忘れないでください。

- ・ 疲れて帰ってきたとき、黙ってご飯を用意してくれた人。
- ・ 不安な顔をしている皆さんを、そばで見守っていた人。

家族の愛は、当たり前のように、決して当たり前ではありません。

卒業式のあと、「ありがとう」と一言伝えてみてはいかがでしょうか。その言葉は、何よりの贈り物になるはずです。

### **最後に、保護者の皆様へ。**

本日まで、お子様を支え、励まし、見守ってこられたことに、心より敬意を表します。小さな手を引いて歩いていたあの頃が、昨日のことのよう思い出されるのではないのでしょうか。

これから、お子様は新たな世界へと旅立ちます。しかし、その歩みの中には、皆様が注いできた愛情が確かに息づいています。本日が、お子様の成長を誇りに思える一日となりますことを心よりお祝い申し上げます。

### **卒業生の皆さん。**

皆さんの人生も、また、季節のように移ろいながら続いていきます。その一瞬一瞬を大切に生きる人であってください。

**雪** の静けさのように心を整え、  
**月** の光のように周囲を照らし、  
**花** のように人の心に喜びを残す。

そんな人へと成長していくことを願い、式辞といたします。

令和8年2月27日  
兵庫県立尼崎北高等学校

校長 岡本 勇人